

特別企画：四国地区 建設業売上高上位 20 社 業績動向調査（2022 年度）

2022 年度の売上高合計、4 年ぶりに減少

利益額合計、4 年連続で増加し、過去 5 年間で最高

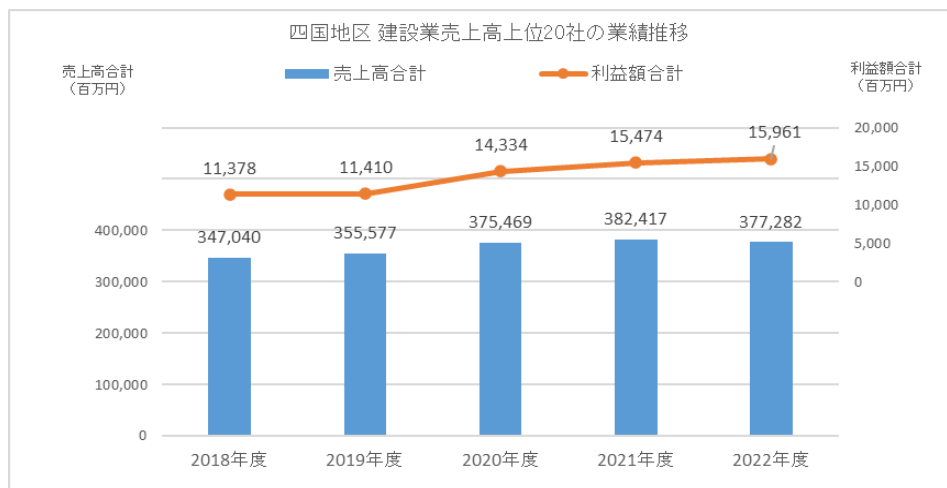
はじめに

物流施設や工場などの需要継続、新型コロナウイルス感染拡大の影響で先送りされていた設備投資の再開などにより民間建設投資が堅調で、公共建設投資も底堅く推移している。また、2023 年度に設備投資を行う予定が『ある』と考えている四国の企業は 64.2% となり、前年度（61.1%）を 3.1 ポイント上回った（帝国データバンク高松支店「四国地区 2023 年度の設備投資に関する企業の意識調査」2023 年 6 月 14 日発表）。そうした経営環境下で、四国地区の主な建設業者の業績はどのように推移しているのだろうか。

帝国データバンク高松支店は、2023 年 10 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、2018 年度（2018 年 4 月期～2019 年 3 月期）から 2022 年度（2022 年 4 月期～2023 年 3 月期）まで 5 年間の決算の売上高と利益額が比較可能な、四国地区に本社が所在する建設業売上高上位 20 社を抽出し、売上高別、利益額（当期純利益）別、売上高ランキングについて分析した。

調査結果（要旨）

1. 2022 年度の売上高合計は 3,772 億 8,200 万円
前年度と比べて 51 億 3,500 万円（1.3%）少なく、4 年ぶりに減少
2. 2022 年度の利益額合計は 159 億 6,100 万円
前年度と比べて 4 億 8,700 万円（3.1%）多く、4 年連続で増加



1. 売上高合計、4 年ぶりに減少

四国地区に本社が所在する建設業売上高上位 20 社について、2018 年度～2022 年度決算の売上高合計をみると、2022 年度は 3,772 億 8,200 万円となり、前年度と比べて 51 億 3,500 万円 (1.3%) 少なく、4 年ぶりに減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で先送りされていた設備投資の再開や、人手不足並びに資材価格の上昇などで工事単価を引き上げて増収となった企業があったものの、前年度の大口案件からの反動や円安・資材価格の上昇で工事の延期などがあり、売上高合計の減少につながったとみられる。

増減収 (3%以上) の社数別内訳は、増収が 10 社、減収が 6 社、横ばいが 4 社であった。

年商規模別の売上高合計をみると、「100 億円未満」が前年度比 28.7%増、「100 億～500 億円未満」が同 37.6%増となったものの、「500 億円以上」が同 33.8%減となり、全体を押し下げた。

(単位: 百万円)

年度	売上高合計	前年度比 (%)	売上高合計 (年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2018年度	347,040	▲ 1.3	70,635	153,038	123,367
2019年度	355,577	2.5	74,083	157,127	124,367
2020年度	375,469	5.6	77,364	107,423	190,682
2021年度	382,417	1.9	70,001	112,478	199,938
2022年度	377,282	▲ 1.3	90,089	154,802	132,391

2. 利益額合計、4 年連続で増加し、過去 5 年間で最高

2018 年度～2022 年度決算の利益額合計 (当期純利益) をみると、2022 年度は 159 億 6,100 万円となり、前年度と比べて 4 億 8,700 万円 (3.1%) 多かった。4 年連続で前年度を上回ったほか、過去 5 年で最高となった。

増減益の社数別内訳は、増益が 11 社、減益が 9 社であった。増収効果が見られた企業や、比較的利益率の良い案件を手がけたことで大幅増益となった企業があり、利益額合計の増加につながったとみられる。

年商規模別の利益額合計をみると、「500 億円以上」が前年度比 36.9%減となったものの、「100 億円未満」が同 74.4%増、「100 億～500 億円未満」が同 33.7%増となり、全体を押し上げた。

(単位: 百万円)

年度	利益額合計	前年度比 (%)	利益額合計 (年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2018年度	11,378	▲ 10.0	2,429	4,507	4,442
2019年度	11,410	0.3	2,614	4,743	4,053
2020年度	14,334	25.6	2,673	5,053	6,608
2021年度	15,474	8.0	2,417	4,963	8,094
2022年度	15,961	3.1	4,215	6,638	5,108

3.まとめ

今回の調査で、四国地区に本社が所在する建設業売上高上位 20 社の 2022 年度の売上高合計は 4 年ぶりに減少したものの、利益額合計は 4 年連続で増加し、過去 5 年で最高となったことがわかった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で先送りされていた設備投資の再開が見られた一方で、前年度の大口案件からの反動や円安・資材価格の上昇で工事の延期などがあり、売上高合計の減少につながった。また、増収効果とともに比較的利益率の良い案件を手がけたことで大幅増益となった企業があり、利益額合計の増加につながった。

2023 年度に入っては、新型コロナウイルスが 5 類へ移行したことで経済の正常化が進展し、増収を予想している企業は多い。一方で、資材価格の高騰の影響が見られることや、資材価格が高騰する前に受注した案件を抱える企業もある。また、人手不足による労務費の増加なども相まって、収益面への影響が少なからず出てくるものと思われることから、引き続き動向をみていく必要がある。

<参考>

四国地区 建設業売上高上位20社 2022年度売上高ランキング (単位:百万円)

順位	商号	所在地	年売上高 (2022年度)	前年度比 増減	前年度比 増減率(%)
1	株式会社 四電工	香川県	74,399	▲	▲ 4.6
2	株式会社 合田工務店	香川県	57,992	▲	▲ 1.1
3	四電エンジニアリング 株式会社	香川県	47,327	▲	▲ 25.2
4	大旺新洋 株式会社	高知県	28,047	▲	15.0
5	四国通建 株式会社	愛媛県	23,780	▲	▲ 3.0
6	株式会社 一宮工務店	愛媛県	19,121	▲	6.8
7	株式会社 小竹組	香川県	14,552	▲	32.5
8	フジケンエンジニアリング 株式会社	愛媛県	11,888	▲	17.2
9	株式会社 姫野組	徳島県	10,087	▲	▲ 23.4
10	白石建設工業 株式会社	愛媛県	9,780	▲	171.8
11	株式会社 岸之上工務店	高知県	9,645	▲	▲ 15.4
12	ミサワホーム四国 株式会社	香川県	9,384	▲	▲ 1.4
13	株式会社 三好鉄工所	愛媛県	8,404	▲	2.5
14	株式会社 カナック	香川県	8,360	▲	4.1
15	株式会社 轟組	高知県	7,825	▲	28.9
16	株式会社 ニシテック	徳島県	7,744	▲	10.1
17	井原工業 株式会社	愛媛県	7,658	▲	8.0
18	株式会社 オリックス	香川県	7,124	▲	61.3
19	株式会社 ドコモCS四国	香川県	7,106	▲	▲ 20.0
20	マルマストリグ 株式会社	愛媛県	7,059	▲	▲ 1.4

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、道田 祐一

TEL：087-851-1571 FAX：087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。